

SIAP/UNDP共催

「国家人間開発報告のための統計に関する地域セミナー」について(1)

1 はじめに

2002年10月31日から11月2日まで、国連のアジア太平洋統計研修所 (Statistical Institute of Asia and the Pacific: SIAP) 及び国連開発計画 (United Nations Development Plan: UNDP) の共催で、千葉市美浜区 (幕張) の海外職業訓練協会 (Overseas Vocational Training Association) において、「国家人間開発報告のための統計に関する地域セミナー (Regional Seminar on Statistics for National Human Development Reports)」が開催された (国家人間開発報告については、以下「NHDRs」という。)。筆者は、その第1日めに参加するとともに、後日、セミナー議事報告を入手した。本稿では、最初に背景事情として、本プロジェクトの前提となる SIAP と UNDP の共同プロジェクト、国家人間開発報告 (National Human Development Reports: NHDRs) 及びミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) について紹介したのち、今回のセミナーの概要を報告する。

2 SIAPとUNDPのNHDRに関するプロジェクトについて¹⁾

SIAP と UNDP は、1998 年から「NHDRs の作成に必要とされるデータ収集/集計及び統計分析における国家能力の確立と強化 (Establishing and Strengthening National Capacity in Data Collection/Compilation and Statistical Analysis Required in the Preparation of NHDRs)」(RAS/97/065) という共同プロジェクトを実施してきた。

プロジェクトの目的は、各国の国家統計機関 (National Statistical Organization: NSO) が、以下の2つの課題に対応することを支援することである。すなわち、

- 継続的な NHDRs の作成は、利用可能性と品質に関して、統計の高い基準を求めてきた。人間開発の重要な局面すべてに関する統計情報及び分析と、基礎的な行政レベルへの詳細情報の利用可能性は、人間開発及び地域を越えたそのインパクト

の達成の分析のために必要である²⁾。

- アジア太平洋地域における大部分の開発途上国においておおむね不適当な統計インフラストラクチャーが広くゆきわたっている状況のために、開発戦略、政策及び過程においてより深く議論する際のNHDRsの能力と効果が発揮されていない。

この目的を達成するため、SIAPはUNDPの協力の下、次のような活動を行ってきた。

- ① 研修教材の整備
- ② 国別の現地研修(カントリー・コース及びサブリジョナル・コース)の実施³⁾。カントリー・コースの目的は、経済・社会政策のインパクトを効果的に評価・監視するための信頼できる統計その他の情報の収集・分析・解釈及び分解の分野における国家能力の確立と強化であり、標準化された様式での協調した定義と提示を通じた統計の収集が強調される。具体的には、(i) 人間開発の概念の紹介と人間開発という主題に対する参加者の関心の喚起、(ii) 自国のNHDRsの幅広い対象範囲のために必要なデータの認識の植え付けと、NHDRs編

纂のための主要な統計機関と他の政府機関との協力の醸成、そして (iii) 人間開発の異なった局面を反映するために用いられる統計に関する知識と理解の提供である。カントリー・コース及びサブリジョナル・コースには、以下の2種類がある。

- a) 「NHDRsのための統計 (Statistics for NHDRs)」
カントリー・コース：16か国で開催され、計474人が参加(表1)。参加者は、各国の中間クラスの統計専門家及び他の省庁の統計知識のある経済専門家である。コースは10日間。
 - b) 「世帯及び事業所調査のための標本設計」
カントリー及びサブリジョナル・コース：カントリー・コースは2か国で、サブリジョナル・コースは1か所でそれぞれ実施された(表2)(2002年12月にイランで中級の標本技術及びその適用に関するサブリジョナル・コースを実施する予定)。
- ③ サブリジョナル・ワークショップ及び地域セミナーの開催。2002年8月7-9日に、バンコクにおいてサブリジョナル・ワークショップが開催された(後述)。もう一つの地域セミナーが本会合である。

表1 「NHDRのための統計」カントリー・コース一覧

開催都市名(国名)	開催日	参加者数
バンコク(タイ)	1999年4月19日-30日	24
ヤンゴン(ミャンマー)	1999年6月3日-16日	39
ウランバートル(モンゴル)	1999年6月26日-8月6日	31
ポートモレスビー(パプアニューギニア)	1999年11月1-12日	31
ダッカ(バングラディシュ)	1999年11月16-30日	30
ブノンベン(カンボジア)	2000年6月19-30日	30
ケソンシティー(フィリピン)	2000年10月9-20日	30
テヘラン(イラン)	2000年11月11-22日	30
ジャカルタ(インドネシア)	2001年1月8-19日	28
ヴィエンチャン(ラオス)	2001年6月4-15日	33
ティンブー(ブータン)	2001年6月18-29日	27
コロンボ(スリランカ)	2001年10月29日-11月9日	28
プトラジャヤ(マレーシア)	2002年2月18日-3月1日	30
アピア(サモア)	2002年3月25日-4月5日	22
ハノイ(ベトナム)	2002年5月20日-31日	32
カトマンズ(ネパール)	2002年6月17-28日	29
計		474

表2 「世帯及び事業所調査のための標本設計」 カントリー及びサブリジョナル・コース一覧

開催都市名 (国名)	開催日	参加者数
カトマンズ (ネパール)	1999年2月15-26日	24
ハノイ (ヴェトナム)	1999年4月5-16日	25
ナディ (フィジー) [サブリジョナル]	2002年3月4-15日	28
計		77

3 人間開発 (Human Development) 概念、NHDRsと人間開発の指標

(1) 人間開発の概念

「人間開発」の概念は、パキスタンのマーバブ・ウル・ハク博士 (Dr Mahbub Ul Haq)⁴⁾ が提唱した概念で、開発の目的は人間の選択の幅を拡大することであり、そのためには、人間の能力を開発することが必要であるとするものである。抽象的で分かりにくい概念であるため、少々長文になるが、UNDPの人間開発報告から引用する。

「人間開発は、国民所得の増減をはるかに超えたものである。それは、人々が、自らのニーズと関心にしたがって、自らの能力を十全に開発し、生産的で創造的な生活を送ることができる環境を作り出すものである。開発は、したがって、人々が、自らが価値があると考えられる生活を送るために有する選択の幅を拡大することに関するものである。そして、さらに、それは、経済成長をはるかに超えたものである。経済成長は、たとえそれがとても重要なものとしても、人々の選択の幅を拡大する手段に過ぎない。

これらの選択の幅を拡大する基礎は、人間の能力、すなわち人々が生活において行い、又はその状態にある事柄の幅を確立することである。人間開発のための最も基礎的な能力は、長く健康な人生を送ること、知識を有すること、それなりの生活水準のために必要とされる資源へのアクセスを有すること、そしてコミュニティの生活に参加できることである。これらの能力なしには、多くの選択肢は利用できず、人生における多くの機会にアクセスできない。

このような開発に対する物の見方は、時として積み重なる商品や金銭的財産に関する喫緊の関心の中で忘れられがちであるが、新しいものではない。哲学者、経済学者、そして政治的指導者たちは、人間

の福祉を開発の目的、到達点として、長い間強調してきた。古代ギリシャにおいて、アリストテレスは、『明らかに、富は我々が求めるものではない。なぜならば、それは、単に、他の何物かのために便利であるのに過ぎないから。』と述べた。

他の何物かを追求するに際して、人間開発は、人権と共通のビジョンを共有する。目標は人間の自由である。そして、能力の追求と権利の実現に際して、この自由は死命を制する。人々は自らの選択肢を実施し、自らの生活に影響する意思決定に参加することに自由でなければならない。人間開発と人権は、相互に補強し、すべての人々の福祉と尊厳を守る助力となり、自己と他者の尊重を確立しつつある。⁵⁾

(2) NDHR

人間開発という目的の実現のため、UNDPはその達成度を測定、分析することとし、人間開発報告 (Human Development Report: HDR) と総称される一連の文書の作成を推進することとした。HDRは、主として三層に分類される文書群から構成される。頂点に立つのは、世界HDR (Global HDR) で、UNDPが、世界各国の人間開発に関係する指数と、その基礎となる指標を、分析を加えて、1990年に第1回を発行して以来、毎年1回発行している。

第2層に位置するのが、地域HDRである。これは、地域 (またはその部分) 単位で、人間開発に関するデータを取りまとめ、分析するものである。アジア太平洋地域では、これまで太平洋地域に関して1回、南アジア地域に関して5回発行されている。

第3層に位置するのが、NHDRsである。最初のNHDRsは、1992年にバングラディッシュとカメルーンにおいて発行された、地域HDRとNHDRsは、総論型 (General HDR) と、テーマ型があり、作成頻度、テーマ選定等に関して、特に縛りはないようである (表3)。

表3 アジア太平洋地域で発行された地域HDR及びNHDRs (1996年以後)

西暦 地域名又は国名	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
太平洋				機会の創造			
南アジア		人間開発の挑戦	教育の挑戦	ガヴァナンスの危機	ジェンダーの疑問	グローバル化と人間開発	
バングラディシュ	貧困者を救う (pro-poor) アジェンダ		人間開発の監視		人間の貧困との戦い		バングラディシュにおける人間の安全保障
ブータン					国民総幸福		
カンボジア		GHDR	開発に対する女性の貢献	村経済と開発	子供と雇用	カンボジアにおけるHIV/AIDS流行の社会的観点	
中国		貧困の緩和と人間開発		市場移行と国家			緑の開発を選択肢とする
東チモール						NHDR	
フィジー		GHDR					
インドネシア	GHDR					新たなコンセンサスに向けて	
インド						ガヴァナンスと人間開発に関するHDR	
イラン				GHDR			
ラオス			GHDR				
モルディブ						人間開発に対する挑戦と回答	
モンゴル		GHDR			国家の方向を変える		
ミャンマー			GHDR				
ネパール			GHDR			貧困削減とガヴァナンス	
パラオ				過去とともに進歩する			
バブアニューギニア			GHDR				
フィリピン		開発における女性とジェンダー			基礎的教育における品質、アクセス及び有意性		人的資本、雇用及び福祉
サモア			人間開発の状況分析				
韓国			GHDR				
スリランカ			人間開発の地域的局面				
タイ				GHDR			
ツバル				GHDR			
ヴァヌアツ	一緒に動く						
ヴェトナム						ドイモイ過程と人間開発	

凡例：GHDR: General HDR、NHDR: National HDR

注1：今回のセミナーに招待された25か国について作成されたものである。

注2：インドでは、1995年以後、4州において州のHDR (sub-national HDR) が発行されている。

出典：Annexure-1 in K. Seeta Prabhu, "Keynote Speech" (SIAP/UNDP/CHIBA/DOC-22, October, 2002)

(3) 人間開発の指標

人間開発の指標として、これまで、人間開発指数 (Human Development Index: HDI)、ジェンダー関係開発指数 (Gender-related Development Index: GDI)、ジェンダー・エンパワーメント測定 (Gender Empowerment Measure: GEM)、及び人間貧困指数 (Human Poverty Index: HPI) が開発され、HDRで使用されてきている。

① HDI

HDIは、HDR発行開始から使用されており、人間開発の進捗度を表す最も基礎的な指数である

指数の計算方法は、i) 人間開発の局面を複数選択し、それを測定するための指標を1ないし2選択する、ii) 当該国が、当該指標の世界最高基準値と世界最低基準値の間でどこに位置するかを、世界最高基準値と世界最低基準値の差に対する当該国の値と世界最低基準値の差の割合で算出する、iii) これにそれぞれの指標のウェイトをかけて合計し、0以上1以下の指数を算出する、というものである⁶⁾。

$$\text{局面指数} = \frac{\text{当該国の値} - \text{世界最低基準値}}{\text{世界最高基準値} - \text{世界最低基準値}}$$

HDIの構成は表4のとおり。我が国は、2000年のHDIで、0.933 (世界第9位) である⁷⁾。

表4 HDIの構成

局面	長く健康な人生	知識		それなりの生活水準
指標	平均寿命	成人識字率 (15歳以上)	総就学率 (第1次～第3次教育)	1人当たりGDP (PPP換算USドル) (指数化する際には 対数化して計算)
ウェイト	1/3	2/9	9/1	3/1
世界最高基準値	85	100	100	40,000
世界最低基準値	25	0	0	100

表5 平均寿命の男女別基準値

性別	女性	男性
世界最高基準値	87.5	82.5
世界最低基準値	27.5	22.5

② GDI

GDIは、GEMとともに1995年に導入された指数で、HDIの各要素の利益が、男女間でいかに平等に享受されているかを数値化したものである。具体的には、i) 男女別に表4の各指数を算出する(「知識」(=教育)については、識字率と総就学率にそれぞれ2/3、1/3のウェイトをかけて教育指数を算出する)、ii) 各性別の人口比に前記指数の逆数をかけて、その結果を両性で合計し、さらにその逆数を出す「平等分配指数 (Equally Distributed Index: EDI)」を算出する、そして、iii) 各EDIを単純平均する⁸⁾。我が国は、0.927で世界第10位である。

$$\text{EDI} = \{[\text{女性の人口比}(\text{女性の指数}^{-1})] + [\text{男性の人口比}(\text{男性の指数}^{-1})]\}^{-1}$$

平均寿命のみ、基準値が男女で異なる(表5)。

③ GEM

GEMは、ジェンダー間の機会と参加の差の程度を示す指数である。GEMでは、局面ごとに「平等分配等価指数 (Equally Distributed Equivalent Percentage)」を算出し、理想値(50)で割って指数化した上で、その単純平均を出すものである。平等分配等価指数は、GDIの平等分配指数と同様に、各性別の人口比に局面ごとの指数の逆数をかけて、その結果を両性で合計し、さらにその逆数を出す。た

だし、平等分配指数では局面ごとの指数が $0 \leq x \leq 1$ の指数であるのに対し、平等分配等価指数では、局面ごとの指数が百分率の割合で示されるため、50 (%) で割るものである。

GEMの構成は表6のとおり。我が国は、2000年のHDIで、0.527 (世界第32位) である。

④ HPI

HPIは1997年に導入された。HDIが人間開発における平均的な到達度を示すのに対し、HPIは人間開発における「剥奪 (deprivation)」の程度を示すものである。HPIは、さらに、開発途上国向けのHPI-1と、OECD諸国向けのHPI-2に分かれる。

a) HPI-1

HPI-1の構成は、表7のとおりである (「それなりの生活水準」内の2指標は、それぞれ1/2ずつのウェイト)。

計算方法は次のとおり⁹⁾。

$$HPI-1 = \{1/3(\rho_1^3 + \rho_2^3 + \rho_3^3)\}^{1/3}$$

ρ_1 = 40歳までに死亡する確率

ρ_2 = 成人識字率

ρ_3 = (改善された水資源を利用しない人口比率 + 5歳未満の子供のうち体重の少ない者の比率) / 2

b) HPI-2

HPI-1の構成は、表8のとおりである (「それなりの生活水準」内の2指標は、それぞれ1/2ずつのウェイト)。

計算方法は次のとおり。

$$HPI-2 = \{1/3(\rho_1^3 + \rho_2^3 + \rho_3^3 + \rho_4^3)\}^{1/3}$$

ρ_1 = 60歳までに死亡する確率

ρ_2 = 機能的に識字能力を有しない成人の比率

ρ_3 = 貧困所得ライン以下の生活をしている者の比率

ρ_4 = 長期失業者の率

我が国は、17か国中9位 (11.2%) である¹⁰⁾。

表6 GEMの構成

局面	政治参加 (議会代表)	経済参加		収入
指標	議会議席の性比	議会議員、上級公務員及び管理職員の性比	専門的・技術的職業従事者の性比	性別の推定収入

表7 HPI-1の構成

局面	長く健康な人生	知識	それなりの生活水準	
剥奪の解釈	比較的若年での死に対する脆弱性	読書及びコミュニケーションの世界からの除外	全体的な経済の供給に対するアクセスの欠如	
指標 (%)	40歳までに死亡する確率	成人非識字率	改善された水資源を利用しない人口比率	5歳未満の子供のうち体重の少ない者の比率

表8 HPI-2の構成

局面	長く健康な人生	知識	それなりの生活水準	社会的除外
剥奪の解釈	比較的若年での死に対する脆弱性	読書及びコミュニケーションの世界からの除外		
指標 (%)	60歳までに死亡する確率	機能的に識字能力を有しない成人 (16-65歳) の比率	貧困所得ライン (世帯の可処分所得のメジアン50%) 以下の生活をしている者の比率	長期失業者 (12か月以上) の率

【注】

- 1) 本項は、セミナー提出ペーパー"A Review of the Implementation of Country Courses on 'Statistical for National Human Development Reports'" (United Nations Statistical Institute for Asia and the Pacific, SIAP/UNDP/CHIBA/DOC-24, October, 2002)の、"I. BACKGROUND INFORMATION" 及び "II. MAJOR ACHIEVEMENTS"による。
- 2) NHDRの文脈でいう「地域 (region)」は、アジア太平洋、アフリカ、ラテンアメリカ等の国家群を指す。
- 3) 「サブリジョナル」は、注2でいう地域のうち、特定の範囲の国家群を指す場合に用いられる。
- 4) 1934-1998年。パキスタン計画委員会首席エコノミスト、世界銀行政策立案部長、パキスタン計画・財務大臣、IMF及び世界銀行理事、人間開発センター(カラチ)所長等を歴任。1973年に第三世界フォーラムを創設するとともに、南北円卓会議の議長、プラント委員会卓越アドバイザー等も務める
(http://www.toda.org/conferences/hugg_hon/bios/haq%20m.html) 参照。
- 5) Human Development Report 2001 (2001, UNDP), p.9
(<http://hdr.undp.org/reports/global/2001/en/pdf/chapterone.pdf>) 参照。なお、人間開発概念を確立するに当たってどのような事柄を考慮に入れたかについては、第1回人間開発報告 Human Development Report 1990 (1990, UNDP), ch.1 "Defining and measuring human development" (http://hdr.undp.org/reports/global/1990/en/pdf/hdr_1990_ch1.pdf) が詳しい。
- 6) 詳しい計算方法については、"Technical Note 1: Calculating the Human Development Indices" in Human Development Report 1990 (1990, UNDP), p.252-258
(<http://hdr.undp.org/reports/global/2002/en/pdf/backtwo.pdf>) 参照。
- 7) 日本においては、他の先進諸国同様、成人識字率のデータが存在しないため、99.9%で代用して算出している。
- 8) ii)で、指数の逆数をかけることについては、前記 Technical Noteにおいては、指数を $(1 - \epsilon)$ 乗する (ϵ はジェンダー不平等懲罰規模 (the size of the penalty for gender inequality)) と説明している。 ϵ が0の場合GDIはHDIと一致し、それより無限大に向かって大きくなるにつれ、不平等の差が大きく指数に表れる (指数を小さくする)。GDIでは $\epsilon = 2$ であり、これは中程度の懲罰規模であるとする。
- 9) 累乗の数 (及びその全体にかかる負の累乗の数) は、小さくなればなるほど、構成指標の中で相対的に弱いものの影響力が大きくなる。HPI-2においても同じ。
- 10) 日本における機能的に識字能力を有しない成人 (16-65歳) の比率はデータがないため、推計値15.1% (データが存在する先進国の単純平均) を用いて算出している。また、貧困所得ライン以下の生活をしている者の比率については、ルクセンブルグ所得調査 (Luxembourg Income Study: LIS) の推計値11.8%を用いているが、日本はLISに参加しておらず、LISホームページ(<http://www.lisproject.org/>)においても、当該推計値は発見できなかった。